

保育者をめざす学生の音楽表現力の育成について

—音楽と朗読劇を通して—

菊池 由美子・吉村 哲・剣持 清之

1. はじめに

本学幼児教育科は、幼稚園教諭および保育士資格の取得をめざす学生を養成している。カリキュラムの中に特色ある教育の一環として専門基礎特別演習（1年生対象）および専門特別演習（2年生対象）という科目を開講している。専任教員全員が講座を開講し、保育者をめざす学生たちは好きな講座を選択して各講座に所属している。音楽関係の講座は、ピアノ専攻の剣持清之ゼミ、声楽専攻の吉村哲ゼミ、ピアノ・音楽教育専攻の菊池由美子ゼミの3講座があり、それぞれ個人レッスンを通してテクニックや音楽表現を学び、実技試験においてソロ演奏を課している。音楽専攻ゼミを希望する学生はある程度の音楽経験はあるがレベルはさまざまな状況である。保育者をめざす学生に求められる表現力を育成することを考慮し、2008年度から音楽の3講座が一体となって「音楽と朗読劇 シェイクスピアっておもしろい！ こどものためのロミオとジュリエット」他に組み込んで現在に至っている。この2008～2012年度にわたる5年間の実践から保育者をめざす学生たちが音楽と朗読劇を通して、音楽表現に対する考え方や表現力がどのように変化したか、またどのような成長がみられたのかを考察するのが目的である。

2. 朗読と音楽における表現の関わり

朗読は演技や動きのない言葉による表現、音楽は音による表現である。表現の様式は異なるが、いずれも言葉の羅列や音の羅列だけでは表現とはいえない。表現するということは、言葉あるいは音をそれぞれどのように解釈して感じ、どのように表現をして伝えるかということ

である。

新垣壬敏⁽¹⁾は、言葉を伴う音楽の形態を「かたり」「うたい」「うた」という三形態に分けている。「かたり」の形態は朗読、「うたい」の形態は朗詠・朗唱、「うた」の形態は歌謡である。「うた」は言葉だけでは表現できなかった意味内容をメロディーでさらに深め、膨らませているので、「かたり」すなわち朗読そのものが音楽の一番最初の形態であるという。また、音の四要素として(1)長さ(2)高さ(3)強さ(4)音色をあげ、「うた」の形態はもちろんのこと、「かたり」の形態にも含まれていて、いずれも音の四要素は単独ではなく総合的に現れるものであり、まさに「かたり」の形態は、音楽の原初的形態であると言っている。朗読は音楽の始まりであるという新垣の言葉は、朗読と音楽の関係をよくあらわしていると考える。

朗読は、台本の台詞回しや場面の状況をよく理解して、情景を想像してイメージを膨らませ、感情をこめて表現して伝えることである。音楽も楽譜からフレーズや曲の構成などを読み取り、音楽をどのように感じて、感情をこめて演奏して伝えるのかである。いずれも台本や楽譜をよく読み込み、いろいろな状況や内容をよく理解して自分なりに想像し、イメージすることが必要である。石塚雄康⁽²⁾は、「言語というものはその意味とイメージとが同時に表現され受容されなければ正しく伝達することができないのです。(中略)「イメージというものは自分のからだの中に構築される状況であり、それが相手に受容されたときに立証されるもの」です。そして、イメージはトーン・テンポ・間などを決定するもとになっていく」と言っている。ここでは言語に関して述べているが、ただ何となく漠然と想像するのではなく、意味とイメージを表現して受容されて初めて成り立つものとい

う意味では、言語にも音楽にも共通して言えることと考える。

次に表現するために必要とされるものは何かである。アーティキュレーション、アクセント、ポーズ、リズム、テンポ、フレージング、イントネーション、強弱、音の高低、音質の変化、呼吸法などがあげられる。表現して伝えるという観点から考えると、朗読と音楽は表現の形態は異なるが、どちらにも共通してあてはまる内容であるのは至極当然のことと考えられる。朗読を経験した学生は表現することについてどのように考え、気づき、音楽表現にどう生かしているか5年間の実践を通して考察する。

3. 朗読と音楽劇の実践

2008年度から2012年度の5年にわたり、音楽専攻ゼミ演奏会を実施した。内容は「音楽と朗読劇」こどものためのシェイクスピアのシリーズを手がけ、音楽専攻1年生が朗読、同2年生が音楽（リコーダー、声楽、ピアノ）を担当し、一般公開の形で演奏会を開催してきた。各年度の演奏会の実施内容は下記のとおりである。

〈2008年度〉

日時：2008年12月19日(金) 18時開演
 会場：プラザおでって
 演目：音楽と朗読劇 シェイクスピアっておもしろい！ こどものための「ロミオとジュリエット」 W. シェイクスピア作、ロイス・バーデット編、鈴木扶佐子訳、アートデイズ出版
 音楽選曲・編曲：劔持清之
 演奏：音楽専攻2年生16名（リコーダー、声楽、ピアノ）
 朗読：音楽専攻1年生18名

〈2009年度〉

日時：2009年12月19日(土) 17時開演
 会場：プラザおでって
 演目：音楽と朗読劇 シェイクスピアっておもしろい！ こどものための「ハムレット」 W. シェイクスピア作、ロ

イス・バーデット編、鈴木扶佐子訳、アートデイズ出版

音楽選曲・編曲：劔持清之
 演奏：音楽専攻2年生18名（リコーダー、声楽、ピアノ）、
 朗読：音楽専攻1年生10名

〈2010年度〉

日時：2010年12月3日(金) 18時30分開演
 会場：プラザおでって
 演目：音楽と朗読劇 シェイクスピアっておもしろい！ こどものための「マクベス」 W. シェイクスピア作、ロイス・バーデット編、鈴木扶佐子訳、アートデイズ出版
 音楽選曲・編曲：劔持清之
 演奏：音楽専攻2年生10名（リコーダー、声楽、ピアノ）
 朗読：音楽専攻1年生15名

〈2011年度〉

日時：2011年12月1日(木) 18時開演
 2011年12月2日(金) 18時開演
 会場：プラザおでって
 演目：音楽と朗読劇 シェイクスピアっておもしろい！ こどものための「ロミオとジュリエット」 W. シェイクスピア作、ロイス・バーデット編、鈴木扶佐子訳、アートデイズ出版
 音楽選曲・編曲：劔持清之
 演奏：音楽専攻2年生15名（リコーダー、声楽、ピアノ）
 朗読：音楽専攻1年生26名

〈2012年度〉

日時：2012年12月1日(土) 18時開演
 会場：プラザおでって
 演目：音楽と朗読劇 シェイクスピアっておもしろい！ こどものための「テンペスト」 W. シェイクスピア作、伊藤杏里訳、新書館
 音楽選曲・編曲：劔持清之
 演奏：音楽専攻2年生26名（リコーダー、声楽、ピアノ）

朗読：音楽専攻1年生12名

演奏会以前は各音楽ゼミにおいて個人レッスンを行い、同学年同士の交流は少なく、1・2年生の交流は皆無の状況だった。保育者をめざす学生たちにもっといろいろな音楽経験をさせたいという思いから、音楽専攻の3講座の1・2年生が一緒になって音楽と朗読劇に取り組んだのが始まりであった。

2008年度は、後期から練習を開始したが、前例もなく指導する側も学生たちも試行錯誤しながらの練習であった。リコーダーは運指法から始まり、朗読はほとんどの学生が未経験だったために発声法から取り組んだ。ステージで朗読や演奏をした経験のない学生が多く、作品の完成度をあげるのも一苦勞であった。演奏会の内容はまだまだ未熟ではあったが、演奏会の成果は少なからずあったと思われる。後述の学生の感想からもうかがい知ることができる。

2009年度は、前年の反省を踏まえて4月から本格的な練習を開始した。2年生は演奏会における朗読を経験しているので、前年の2年生よりも演奏会に対する意気込みが強かった。また、入学したばかりの1年生には前年の演奏会(DVD)を鑑賞させて、音楽と朗読劇がどのような内容なのかをイメージすることができ、演奏会に向けての方向性は見えたと思われる。練習期間を増やして、演奏会に向けて取り組んだ。

2010年度は、朗読の指導に力を入れ、外部講師(フリーアナウンサー)に朗読の指導を依頼した。2回ではあったが、発声法や活舌練習法、イントネーションや感情の入れ方などいろいろな指導を受け、学生の朗読に対する意識は高くなった。台詞の言い回しも感情表現がついてきて、朗読も少しずつながらレベルアップにつながったと思われる。

2011年度は、初回(2008)の「ロミオとジュリエット」をもう一度吟味して、朗読の台詞および音楽の曲数を増やして再演を試みた。学生は、初回演奏会(DVD)を観て、イメージをつかみ、初回演奏会よりももっといい演奏会にしたいという思いが強くなったようである。また、1年生の学生数が多かったため朗読はダブルキャストで2日公演となった。ダブルキャ

ストで同じ役同士お互いに聴きあったり、話しあったりと刺激しあいながらの練習で相乗効果がみられた。外部講師(フリーアナウンサー)の指導回数も増やして、さらに朗読を強化した。

2012年度は、朗読の外部講師をフリーアナウンサーから演劇関係者に変更して指導を依頼した。どう表現すればよいかわからないところなどを中心に台詞を表現してもらいながら指導して頂き、迫力のあるリアルな表現に学生は刺激を受けたようであった。

5年間演奏会に取り組んできたが、毎年の練習開始はほとんどゼロからの出発であった。前年の反省や外部からの講評を頂きながら、年々空き時間を利用してレッスン時間を増やし、朗読の指導を強化し、自主練習にも力を入れて演奏会に臨んできた。回を重ねるごとに卒業生の数も増え、後輩の指導にあたることもあった。日々の練習での苦勞や感動を味わった達成感を経験している卒業生の言葉は、何よりも学生の心に響くようであった。

4. 演奏会を終えた学生の感想

毎年演奏会終了後、学生には自由記述形式で感想を書いてもらっている。大まかにまとめた内容は下記のとおりである。

〈2008年度〉ロミオとジュリエット

朗読(1年生)

- ・2年生の演奏を聴いて、来年はもっといい演奏をしたい。…………… 13
- ・朗読劇は、声だけで表現するのでとても難しかった。…………… 13
- ・1・2年生が一体となって一つの作品を作る経験ができて、達成感があった。… 12
- ・友だち、先輩との交流が深まった。仲間の大切さ、優しさに触れた。…………… 11
- ・音楽を楽しむことができた。…………… 8
- ・役になりきるのが難しかった。…………… 6
- ・恥ずかしさがあったが、練習を重ねていくうちに役になりきれるようになった。… 4
- ・一言の台詞に気持ちを入れることに努め、どの台詞も欠けてはいけなことを感じ、役の責任を果たす大切さを学んだ。…… 4

- ・外部での発表、人前が出る機会があった。…………… 3

演奏 (2年生)

- ・練習は大変だったが、達成感や音楽の楽しさを味わうことができた。…………… 12
- ・みんなの心が一つになり、感動した。… 6
- ・前例のない演奏会に不安を感じていたが、とてもいい経験をした。…………… 3
- ・いい作品を作るということがとても大変なことが分かった。…………… 3
- ・仲間を支えられた。交流が増えた。… 3
- ・演奏者と客席が一体となり、感動した。… 2

〈2009年度〉ハムレット

朗読 (1年生)

- ・2年生の演奏を聴いて来年はもっといい作品にしようと思った。…………… 7
- ・朗読は言葉だけで動きがないので表現することがとても難しかった。…………… 7
- ・自主練習で向上心や信頼関係が生まれ、お互いに意見を出し合い、刺激になった。5
- ・1・2年生が一体となって一つの作品を作る経験ができて、達成感を感じた。… 4
- ・物語や役のイメージがなかなかつかめず、表現がなかなかわからなかった。…………… 2
- ・複数の役を使い分けて朗読するのが難しかった。…………… 2
- ・恥ずかしさをすて、役になりきることで表現力や想像力を培うことができた。… 2
- ・繰り返し練習を重ねていくうちに台詞に込められた気持ちや情景などを考えるようになり、役のイメージが固まり、自信がついてきた。…………… 2
- ・台詞と歌の歌詞は共通していて、発音をはっきりしないと意味が伝わらない。… 2
- ・先輩と交流ができた。…………… 2
- ・朗読は、保育者にとって役に立つと思った。
- ・朗読と音楽と客席が一体となり、会場の空気がかわったのがわかった。…………… 1

演奏 (2年生)

- ・1・2年生が一体となって一つの作品を作り上げ、達成感を感じた。…………… 12
- ・仲間と協力しながら、一つの目標にむかって努力する難しさや大切さを学んだ。… 12

- ・1年生の時に感動した経験から演奏会を成功させたいという気持ちになり、音楽をどう作っていくかを考え、みんなで話し合った。…………… 8
- ・朗読で役になりきって言葉だけで感情や情景を表現することの難しさを知るとともに皆で一つの作品を作る喜びを知った。それを発揮して演奏しようと思った。… 3
- ・表現する難しさを学び、音楽を楽しむことの大切さを学んだ。これを保育の現場にも生かしたい。…………… 3
- ・本番が一番いい出来だった。…………… 3
- ・「ていねいな音楽づくり」「自分たちで作る音楽」を心がけた。…………… 2
- ・演奏者と客席が一体となり、感動した。… 1
- ・練習を重ねていくうちに自分に自信が持てるようになった。…………… 1

〈2010年度〉マクベス

朗読 (1年生)

- ・2年生の演奏を聴いて来年はもっといい作品にしようと思った。…………… 12
- ・皆で意見を出し合い、キャラクターや場面を考え、工夫して台詞を言うようになった。…………… 10
- ・朗読の練習を重ね、朗読を通して音楽で一番大事な表現力を身につけることができた。…………… 9
- ・朗読劇は、声だけで感情を表現するのでも難しかった。…………… 6
- ・1・2年生が一体となり、朗読と音楽で一つの作品を作り、達成感を感じた。… 6
- ・複数の役になりきるのが難しかった。… 5
- ・講師(フリーアナウンサー)の指導で口の開け方や発声法など、台詞に色を付けることや雰囲気を感じることに役になりきることを学んだ。役の雰囲気などを意識して話すようになった。…………… 5
- ・合同練習を通して2年生の意気込みを感じた。一人ひとりが自分の役に責任を持って取り組まなければいい作品はできないと思い、真剣に取り組んだ。…………… 4
- ・友だち、先輩との交流が深まった。仲間の大切さ、優しさに触れた。…………… 3

- ・朗読を通して努力することを学んだ。… 1
- 演奏（2年生）**
- ・仲間を支えられた。仲間の大切さを知った。…………… 6
 - ・朗読で役になりきって言葉だけで感情や情景を表現することの難しさを知るとともに皆で一つの作品を作る喜びを知った。それを発揮していい演奏をしようと心がけた。…………… 5
 - ・1・2年生が一体となって一つの作品を作り上げ、達成感を感じた。…………… 2
 - ・音楽をどう作っていくかを考え、みんなで話し合った。…………… 1
 - ・練習を重ねていくうちに自分で表現したい思いが出てきて、自信が持てるようになった。…………… 1
 - ・朗読も歌も声を使った表現で共通していると思った。…………… 1

〈2011年度〉ロミオとジュリエット

朗読（1年生）

- ・来年はもっといい演奏会をしようと思った。…………… 18
- ・自主練習を通して、お互いに意見を出し合い、アドバイスをもらい、自主的に考えて朗読するようになった。…………… 13
- ・朗読劇は、声だけで感情を表現するのでも難しかった。…………… 12
- ・朗読を通して、感じること、考えること、感情をこめることなど表現することを意識するようになった。…………… 11
- ・合同練習で2年生の意気込みを感じた。主役も脇役も重要な配役だと感じ、一つ一つの台詞を考えて朗読するようになった。 … 11
- ・練習に取り掛かるのが遅かった。…………… 9
- ・友だち、先輩との交流が深まった。仲間の大切さ、優しさに触れ、支えられた。… 6
- ・恥を捨てて役になりきることを学んだ。5
- ・朗読は動きが伴わない台詞だけでイメージがつかみにくかったので、動きをつけてイメージ作りをした。…………… 4
- ・1・2年生が一体となって朗読と音楽で一つの作品を作り感動、達成感を味わった。 4
- ・ステージに立つ楽しさを実感した。…… 4

- ・朗読を通して表現する難しさや人に伝えることの難しさを感じた。…………… 2
- ・朗読で学んだことを実習や演奏に生かしたい。…………… 1

演奏（2年生）

- ・仲間と協力して一つの目標にむかって努力する難しさや楽しむことを学んだ。… 10
- ・もっといい演奏会にしたいという気持ちから、音楽をどう作っていくかを考え、みんなで話し合った。…………… 6
- ・1・2年生が一体となって一つの作品を作り上げ、達成感を感じた。…………… 6
- ・朗読、音楽どちらも表現することの難しさを実感すると同時に、いずれも表現することの大切さに変わりがないことに気づき、音楽と真摯に向き合った。…………… 4
- ・練習を重ねていくうちに自分に自信が持てるようになった。…………… 4
- ・演奏会で学んだ表現を保育の現場にも生かしたい。…………… 2
- ・朗読を経験して、考える力を養うことができた。…………… 1
- ・「ていねいな音楽づくり」「自分たちで作る音楽を」を心がけた。…………… 1
- ・演奏者と客席が一体となり、感動した。… 1

〈2012年度〉テンペスト

朗読（1年生）

- ・来年はもっといい演奏会にしようと思った。…………… 7
- ・自主練習を通して、お互いに意見を出し合い、アドバイスをもらい、自主的に考えて朗読するようになった。…………… 7
- ・恥を捨てて役になりきることを学んだ。… 7
- ・講師（劇団俳優）に手本を見せてもらい、指導して頂いてとても勉強になった。… 6
- ・先輩に朗読の指導をしてもらい、感情や場面を考えるようになった。…………… 6
- ・朗読劇は、声だけで感情を表現するのでも難しかった。…………… 4
- ・練習に取り掛かるのが遅かった。…………… 3
- ・朗読の楽しさを知った。…………… 3
- ・朗読で学んだことを実習や演奏に生かしたい。…………… 3

- ・練習を積み重ね、失敗を恐れず人前で朗読できたことが自分の自信につながった。… 3
- ・1・2年生が一体となり、朗読と音楽で一つの作品を作り感動した。…………… 3
- ・練習を重ねていくうちに朗読も音楽も表現することが大切であることに気付いた。… 2
- ・身近にある具体的な情景や場面をイメージして、気持ちを考えて朗読するようになった。…………… 2
- ・朗読を経験して達成感を味わうことができ、自分が変わったと実感した。…………… 2
- ・うまく朗読するのではなく、相手に伝わるように台詞を言うことを学んだ。…………… 1
- ・友たち、先輩との交流が深まった。仲間の大切さ、優しさに触れ、支えられた。… 1

演奏 (2年生)

- ・「ていねいな音楽づくり」「自分たちで作る音楽を表現する」ことを心がけ、何度も繰り返し練習をして自分なりに考えて演奏することが大切である。…………… 22
- ・もっといい演奏をしたいと思い、皆で話し合い、考え、朗読で学んだ感情表現などを演奏に生かすことができた。…………… 18
- ・聴いている人に情景が浮かんでくるように、相手に伝わるように意識して表現することを学んだ。…………… 16
- ・仲間を支えられて自由に音楽を楽しむことができた。…………… 10
- ・大げさに表現することや歌うように演奏すること、アーティキュレーション、強弱、音の高低、速さなどをかえることで、表現が全く異なることを知った。…………… 10
- ・ホールで大勢の前で朗読や演奏したという経験、達成感が自信へとつながり、堂々としてできるようになった。…………… 9
- ・協力して皆で一つの作品に取り組み、相手に感謝することができるようになった。… 8
- ・仲間と協力しながら、一つの目標にむかって努力する難しさや大変さを学んだ。… 7
- ・表現する難しさと音楽を楽しむことの大切さを学び、保育の現場にも生かしたい。… 7
- ・1・2年生が一体となって一つの作品を作り上げ、達成感を感じた。…………… 4
- ・一人ひとりが責任をもって朗読や演奏する

- ことが大事ある。…………… 1
- ・演奏者と客席が一体となり、感動した。… 1

5. 考察

音楽を専攻したのになぜ朗読をしなければならないのかという疑問を抱いた学生は少なくなかった。ましてや朗読の経験がほとんどない学生にとって、台詞をどう読めばいいのか皆目見当がつかず戸惑いの方が圧倒的に多かったようである。当然のことながら1年生の朗読練習を始めた頃は、ただ何となく活字を読む行為だけに留まり、声量は乏しく、活舌も悪く、感情移入もできない状態であった。動きが全くない言葉だけの台詞回しに学生たちは戸惑い、どう台詞を言えばよいのか悩み、全体像もなかなかつかめず、自分がどう表現したいかという主体的なものには及ばなかった。講師の指導を受けて朗読に対する取り組み方も多少変化はあったが、まだまだ受け身で自ら考えて台詞を言うまでには進展しないのが常であった。2年生との初めての全体練習で、2年生の演奏会に対する意気込みに触発されて1年生の朗読に取り組む姿勢が変わり、ようやく主体的になって皆で意見を出し合うようになり、何度も台本を読み込み、場面や情景をイメージし、感情を込めて台詞が言えるようになっていった。長期間かけて真摯に作品と向き合い、一つ一つ吟味しながら妥協することなく作品を仕上げるという完成度の高さや一つの共同体が心一つにして作品作りをするためには協調性だけではなく主体性も必要であることを体得していったようである。後半の自主練習を通してお互いに意見を出し合い、自分では気がつかなかった表現方法などを模索しながら、一人ではなく仲間と一緒に考えながら作品作りをすることで、表現する意欲に拍車がかかったようであった。

一方、2年生の演奏では、小・中学校でのリコーダーのレベルとは異なり、高レベルの演奏内容を求められた学生はかなり苦労したようである。運指はもちろんのこと呼吸法やアーティキュレーション、フレージングなど朗読と同じように楽譜を読み込んで、どう表現するかが求められた。ピアノ、声楽においても、普段の実

技試験のようにはいかず、ステージ発表となると要求される内容も高くなった。特にバロック音楽を演奏した経験が少ないために音楽の解釈や演奏方法が分からず、学生はかなり戸惑ったようである。1年生同様、最初は言われるままに受け身で演奏していたが、自主練習を機に自分たちで意見を出し合い、主体的に音楽づくりに取り組むようになると演奏も徐々に良くなっていった。アンサンブルの難しさも経験し、自分だけではなく心一つにして演奏する醍醐味も経験できたようである。

9か月という長期にわたり、学生は一つの作品に時間をかけて練習に取り組んだ。時に辞めたくなくなったり、練習が苦になったりときさまざまな苦勞を乗り越え、徐々に主体性や団結力が生まれ、努力することの大切さや一人ひとりの役割の大切さを学んだ。そして皆の心が一つになっていい作品を作ることの大切さを味わうことにより、表現することへの気付きだけでなく、達成感、自分自身の自信、他者への感謝など得るものは多かったようである。

6. まとめ

保育者をめざす学生に求められる表現とは、まず学生が楽譜や台本を熟慮して心で感じ、幼児の環境や発達段階を考慮しながらイメージを膨らませて、いろいろな形で表現して幼い子どもたちに伝達することである。そのためには、学生自身が実際に体験して音楽などを楽しむ経験をすることは必要不可欠といっても過言ではない。

音楽を伴わない朗読は、一見音楽とは全く関係のない分野に思われがちであるが、表現をするという観点では共通項がある。実際に朗読を経験した学生は、表現することの難しさを知り、台本を読み込んで試行錯誤しながらイメージを膨らませ、どう表現して伝えればよいかを考えに考えて表現することを意識するようになった。それは学生の感想からうかがい知ることができたが、演奏会終了後に行われた1年生後期の実技試験において、演奏技術だけではなく表現の工夫がみられるようになったことからわかる。また、ステージでの臨場感を味わい、

楽しさや達成感から出てくる自信へとつながったことは大きな進歩であったと推察できる。このように表現することを意識して吟味するようになった学生は、音楽においても積極的に表現して伝えることを意識して演奏することができるようになり、演奏表現の幅が広がった。保育者をめざす学生にとって、とても大事な経験となったことは間違いない。音楽に限らず絵本の読み聞かせや紙芝居、劇などさまざまな表現方法があるが、子どもたちにどう伝えるかは、やはり保育者自身が作品の良さを感じることができ、それをイメージして表現することである。

学生にとって今回の音楽と朗読劇は表現を学ぶ上でとても有益な機会となっていることが明らかになった。学生たちは音楽と朗読劇を通して台本や楽譜をよく読み込み、考え、解釈して自分たちなりにイメージを膨らませ、そして相手に伝えることを意識して表現することを学び、どう表現して伝えるかということに気づき、考える習慣が身につくという保育者としての表現力の向上につながったと思われる。付随して、人前に出て発表することで度胸がついた、苦勞して発表した作品で達成感を味わい楽しさを感じることができて自信がついた、先輩後輩の縦の交流、団結して一つの作品を作る仲間としての横のつながりなどコミュニケーション等が図られたことも副産物であった。また、1年前に朗読を経験した2年生の真剣な演奏を聴いて1年生は大いに刺激を受け、自分たちも来年はもっといい演奏をしたいという気持ちに拍車をかけている。演奏会を通して先輩から後輩へ継承していく大切さ、縦のつながりも大事にしたい。これらを踏まえて、今後は身近な先輩や卒業生からの助言や朗読指導の機会を増やし、早い時期から自分で台詞あるいは音楽表現を考える意識を持たせてレベルの高い表現能力を持った学生を育成すること、合わせて指導する立場としての表現方法の可能性を追求することが今後の課題である。

注)

- (1) 新垣千敏 (2005) 『言葉と音楽 朗読は音楽のはじまり』 教文館 p.21-25
- (2) 石塚雄康 (1998) 『表現法のイメージ 日本語の

朗読・群読法』 青雲書房 p.13

号 p.9~15

参考文献

新垣壬敏 (2005) 『言葉と音楽 朗読は音楽のはじまり』
教文館

石塚雄康 (1998) 『表現法のイメージ 日本語の朗読・
群読法』 青雲書房

岡田陽 (2008) 『こどもの表現活動』 玉川大学出版部

伊藤仁美 (2010) 「保育者に求められる音楽表現力の育
成に関する一考察」 ども教育宝仙大学紀要 第1

伊藤仁美 (2011) 「保育者に必要とされる音楽表現力の
育成に関する一考察(2)」 ども教育宝仙大学紀要
第2号 p.11~25

伊藤仁美 (2012) 「保育者に必要とされる音楽表現力の
育成に関する一考察(3)」 ども教育宝仙大学紀要
第3号 p.21~31